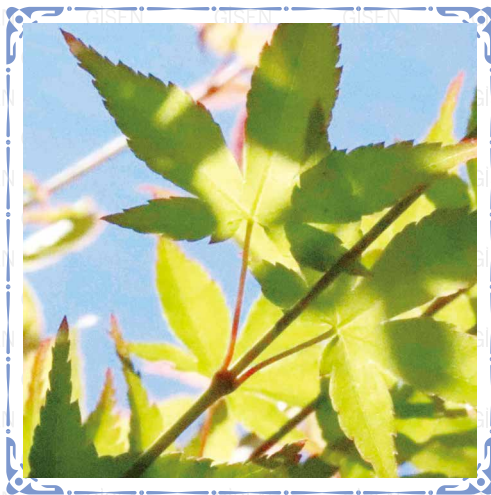


GiSEN

第114期 営業報告書

自 2025年4月1日
至 2026年3月31日



岐セン株式会社

目 次

株主の皆さまへ	1
事業報告	2
グラフによる業績の推移	4
新技術紹介	6
貸借対照表	8
損益計算書	10
株主資本等変動計算書	11
個別注記表	12
会社の概況	14
役員	16
株主メモ	17



株主の皆さまへ

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第114期（自：2025年4月1日 至：2026年3月31日）の当社営業報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当事業年度は、「あるべき姿に向かって企業体質強化を図る基盤確立」を目標に、全社一丸となって市況への的確な対応と、高付加価値商品の提案強化・受注拡大に取り組んでまいりました。

経済環境は緩やかな回復基調が続いたものの、米国政策の不確実性や地政学リスク、中東情勢の急変により先行き不透明な状況が続きました。こうした中、染色加工事業はユニフォームおよび中東民族衣装が堅調に推移し、売上高3,092百万円（前期比6.1%増）を達成しました。テキスタイル販売事業も売上高457百万円（前期比4.1%増）と増収を達成した一方、木材染色事業は車両用途の受注減少により大幅減収となりました。

各事業の成果を総合した結果、通期では純利益72百万円の黒字を達成することができました。これもひとえに株主の皆さまの温かいご理解、ご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

なお、誠に遺憾ながら、当期は利益剰余金の十分な確保には至りませんでした。そのため、当期の配当につきましては無配とさせていただきます。株主の皆さまには、深くお詫び申し上げます。

今後は「持続的な黒字体質の確立」を目標に、新規開発商品の提案強化と受注拡大に努め、永続的な利益創出を図り、高付加価値創造企業"オンリーワンかつナンバーワン企業"を目指してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも引き続き格別のご理解とご支援をたまわりますようお願い申し上げます。

2026年6月

取締役社長 後藤 勝則



事業報告

(自：2025年4月1日 至：2026年3月31日)

1. 会社の現況に関する事項

(1) 事業の経過および成果

当期におけるわが国の経済は、雇用や所得環境の改善が進み、景気は緩やかな回復基調が続きました。一方で、米国の政策をめぐる不確実性や地政学リスクの高まりに加え、2月末の中東情勢の急変により、景気の先行きが一層不透明さを増しております。

繊維業界におきましては、消費者物価上昇による節約志向から、高級衣料の販売減少が懸念されております。また、生産の小ロット化や市場の成熟化、生産現場における人材不足による国内コストの上昇と納期対応の困難化が進んでおります。さらに海外での製品生産が急速に拡大するなど業界を取巻く環境は引き続き予断を許さない状況が続いております。

このような状況の下、当社は、「あるべき姿に向かって企業体質強化を図る基盤確立」を経営目標に掲げ、市況情報を的確に把握・分析・共有を徹底してまいりました。あわせて、得意分野のタイムリーな開発、サステイナビリティをキーワードとした提案強化、および非価格競争力を磨き受注・生産の強化に努めてまいりました。

自助努力としては「3S・省エネプロジェクト」を通じた費用削減、成約に結び付ける商品開発では、ナイロン素材「バゼロ加工」、新シワ加工「ルフレス」、「モデラ」の提案を強化してまいりました。また、自社技術総合展の開催を通じた顧客ニーズの把握・取り込み強化や輸出拡大に向けたRCS(リサイクル・クレーム・スタンダード)認証を取得いたしました。

これらの取組を通じ、SDGs活動も積極的に推進しております。

【染色加工事業】

ファッション関係は、前半に想定を上回る受注減となりましたが、後半は春夏向けのトリアセテート混商品の受注増に加え、ナイロン素材「バゼロ加工」および新シワ加工が需要を牽引し、持ち直しの動きが見られました。ただし通期では前年水準には届きませんでした。ユニフォーム関係は、企業別注品、官需品、難燃商品がいずれも好調に推移しました。一方、中東民族衣装関係も円安効果と新商品の受注で堅調に推移しました。人工皮革関係は、年明け後に新規電材関係の受注が決まり、全体の受注増に寄与いたしました。

以上の結果、当期の当事業の売上高は3,092百万円と前期比176百万円(6.1%)の増収となりました。

【テキスタイル販売事業】

前半苦戦したものの、後半はトリアセテート混商品の受注が好調に推移いたしました。結果、売上高は457百万円と前期比18百万円(4.1%)の増収となりました。

【木材染色事業】

車両用途の受注が大幅に減少する中、新規開発案件が増加したものの、受注獲得には至りませんでした。結果、売上高60百万円と前期比51百万円(△45.7%)の大幅減収となりました。

【ステーブル加工事業】

安定生産により売上高81百万円と前期比4百万円(6.3%)の増収となりました。

以上の結果、当期の業績といたしましては、全売上高は、3,734百万円と前期比149百万円(4.2%)の増収となりました。

利益面では、染色事業の適正価格での受注確保や、テキスタイル販売及びステーブル事業の増収が利益確保に寄与するとともに、国のエネルギー補助金による費用減少に加え全社的に省エネ・工程改善などを通じたコスト削減を図ってまいりました。しかし、原燃料の高止まりと不良損失増加が下押し要因となりました。

結果、営業利益は前期比17百万円減の63百万円、経常利益は前期比7百万円減の72百万円となりました。

最終、減損損失を含めた特別損失2百万円を計上したことで、当期純利益は前期比17百万円減の72百万円と増収減益となりました。

(2) 設備投資の状況

当期の設備投資は、合計269百万円となりました。上記内訳としましては、染色機の更新に167百万円、環境整備・保守関連に60百万円、ボイラー設備の維持に17百万円となっております。

(3) 資金調達の状況

① 上記の設備投資資金として、リース契約、借入金及び自己資金により充当しております。

② 運転資金として、金融機関より借入金として100百万円の調達を行いました。

(4) 対処すべき課題

今後のわが国の経済見通しは、緩やかな回復基調を維持すると予想されますが、中東情勢の緊迫化が世界経済に与える影響は最大の懸念事項であり、先行き不透明な状況が続くと予想されます。

このような環境下で、当社は、「持続的な黒字体質の確立」を目標に、市況情報を的確に把握して商品開発に結び付けてまいります。特に新規開発したシワ加工商品(ルフレス・モデラ)、微起毛商品(ペスカール)やサステナブル商品(バゼロ・バゼッシュ)の提案を強化し受注拡大に努めてまいります。非価格競争力を高めることで受注・生産強化を図り、持続的利益が創出できる高付加価値創造企業“オンリーワンかつナンバーワン企業”を目指してまいります。

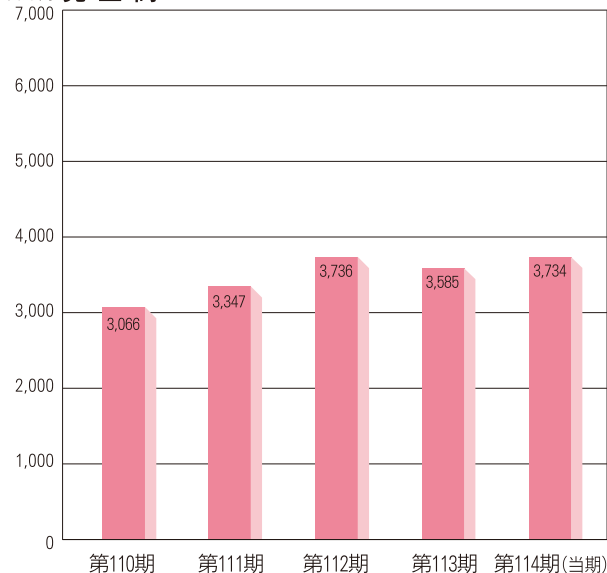
本年度は、重要課題として、以下の項目に注力してまいります。

1. **利益体質への変革**：年間休日120日の実現に向け、主力である染色加工事業の生産性向上、コスト上昇分の価格転嫁、および取引条件の改善を推進します。不採算品については、縮小・撤退も視野に価格交渉を強化します。
2. **全体的な費用削減**：「3S・省エネプロジェクト」を通じて、不良損失削減、工程改善、生産リードタイム短縮を図ります。
3. **新規開発・輸出強化**：欧米への輸出強化やサステナブル商品(e c o m o[®])の開発強化、R C S 認証を活用した輸出拡大を図ります。
4. **新規事業の強化**：木材染色事業において次期車両部材や新規案件の開発を急ぎ、収益基盤を強化いたします。ステーブル加工事業は、安定稼働を継続して売上・利益を確保します。

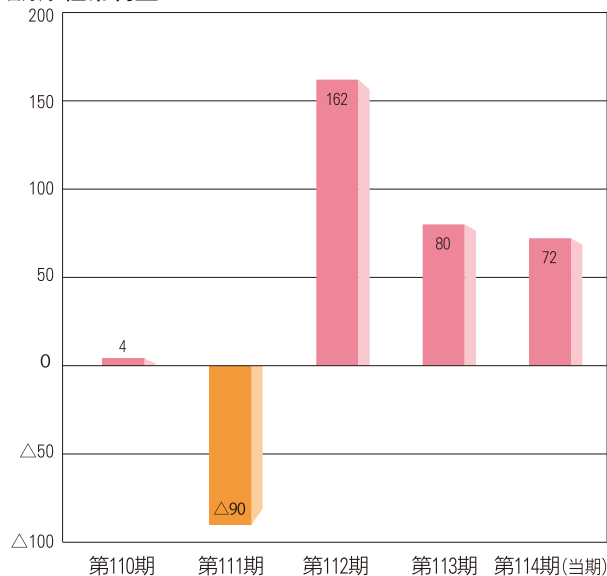
株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

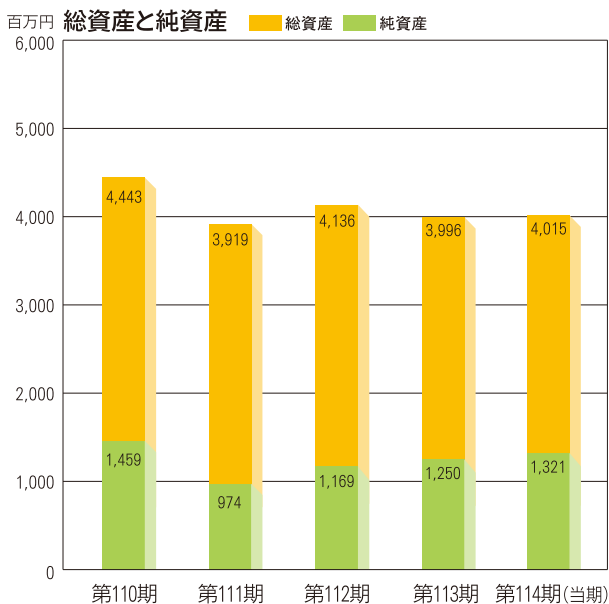
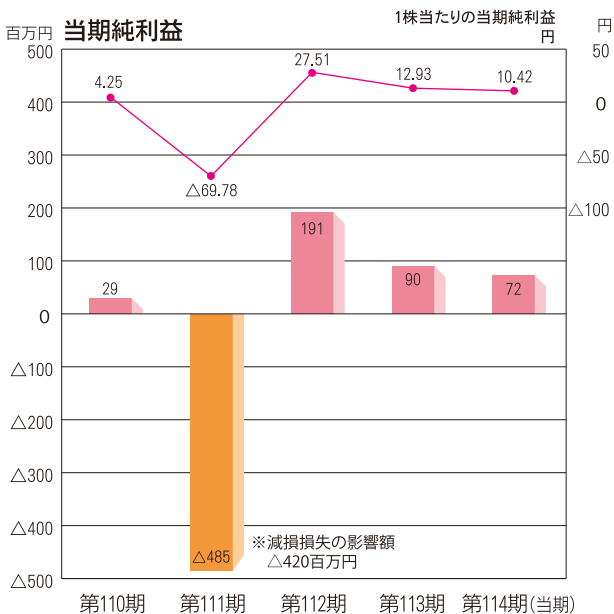
グラフによる業績の推移

百万円 売上高



百万円 経常利益





新技術紹介

RUFFLES ルフレス

滑らかな水面のような、
優美で凛とした表情の中に
はかな
儂さを感じさせる上品なシワを
表現しました。

Modera モデラ

今までにない洗礼されたシワは
素材の美しさを引き立て、
はかな
刻まれる儂い表情、
め
愛でるやさしさを表現しました。

コモガード
FF+10
luorine ree プラス
(プラスアイゼロ)

環境配慮型撥水加工
合成繊維100%素材向け
非フッ素撥水加工
家庭洗濯100回後で
スプレー法 3級以上

コモガード
FF+I
luorine ree プラス
(プラスアイ)

環境配慮型撥水加工
セルロース系素材を含む
複合素材向け非フッ素撥水加工
家庭洗濯50回後で
スプレー法 3級以上

貸借対照表

(2026年3月31日現在)

科 目	金 額
(資 産 の 部)	
流 動 資 産	1,628,867
現 金 及 び 預 金	615,712
受 取 手 形	53,795
売 掛 金	414,871
商 品	36,776
仕 掛 品	134,139
原 材 料	179,362
貯 蔵 品	72,621
未 収 入 金	99,728
そ の 他	22,145
貸 倒 引 当 金	△ 286
固 定 資 産	2,387,064
有 形 固 定 資 産	2,271,239
建 物	475,846
構 築 物	65,075
機 械 及 び 装 置	99,663
車 両 運 搬 具	3,122
工 具、器 具 及 び 備 品	28,369
土 地	1,423,458
リ ー ス 資 産	175,703
無 形 固 定 資 産	3,417
ソ フ ト ウ ェ ア	3,234
電 話 加 入 権	183
投 資 そ の 他 の 資 産	112,408
投 資 有 価 証 券	32,435
関 係 会 社 株 式	74,500
出 資 金	345
そ の 他	5,127
資 産 合 計	4,015,932

(単位：千円)

科 目	金 額
(負債の部)	
流動負債	1,009,256
支払手形	7,032
電子記録債務	123,320
買掛金	107,121
短期借入金	50,000
1年内返済予定の長期借入金	267,863
リース債務	43,109
未払金	185,335
賞与引当金	108,034
設備関係支払手形	8,518
その他	108,921
固定負債	1,685,086
長期借入金	699,111
リース債務	152,965
繰延税金負債	20,687
再評価に係る繰延税金負債	383,721
退職給付引当金	391,542
役員退職慰労引当金	33,002
その他	4,056
負債合計	2,694,342
(純資産の部)	
株主資本	583,542
資本金	100,000
資本剰余金	341,000
資本準備金	88,200
その他資本剰余金	252,800
利益剰余金	150,045
その他利益剰余金	150,045
固定資産圧縮積立金	32,025
繰越利益剰余金	118,019
自己株式	△ 7,503
評価・換算差額等	738,047
その他有価証券評価差額金	7,270
土地再評価差額金	730,776
純資産合計	1,321,589
負債純資産合計	4,015,932

損益計算書

(自：2025年4月1日 至：2026年3月31日)

(単位：千円)

科 目	金 額	
売 上 高		3,734,600
売 上 原 価		3,336,247
売 上 総 利 益		398,352
販売費及び一般管理費		335,003
営 業 利 益		63,349
営 業 外 収 益		
受取利息及び受取配当金	2,746	
助 成 金 収 入	2,890	
保 険 金 収 入	8,039	
そ の 他	14,351	28,027
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	14,507	
そ の 他	3,914	18,422
経 常 利 益		72,954
特 別 利 益		
固 定 資 産 売 却 益	331	
補 助 金 収 入	323	655
特 別 損 失		
固 定 資 産 除 売 却 損	192	
減 損 損 失	2,138	2,330
税引前当期純利益		71,279
法人税、住民税及び事業税	963	
法 人 税 等 調 整 額	△ 2,196	△ 1,233
当 期 純 利 益		72,513

株主資本等変動計算書

(自：2025年4月1日 至：2026年3月31日)

(単位：千円)

項目	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		準備金	その他資本剰余金	資本剰余金計
当期首残高	100,000	88,200	252,800	341,000
当期変動額				
当期純利益				
自己株式の取得				
圧縮積立金の取崩				
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				
当期変動額合計	-	-	-	-
当期末残高	100,000	88,200	252,800	341,000

項目	株主資本				
	利益剰余金			自己株式	株主資本計
	その他利益剰余金		利益剰余金計		
	固定資産圧縮積立金	繰越利益剰余金		合	
当期首残高	36,209	41,322	77,531	△ 4,678	513,853
当期変動額					
当期純利益		72,513	72,513		72,513
自己株式の取得				△ 2,824	△ 2,824
圧縮積立金の取崩	△ 4,183	4,183	-		-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	△ 4,183	76,697	72,513	△ 2,824	69,688
当期末残高	32,025	118,019	150,045	△ 7,503	583,542

項目	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	5,874	730,776	736,651	1,250,505
当期変動額				
当期純利益				72,513
自己株式の取得				△ 2,824
圧縮積立金の取崩				-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	1,395	-	1,395	1,395
当期変動額合計	1,395	-	1,395	71,084
当期末残高	7,270	730,776	738,047	1,321,589

個別注記表

重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 有価証券の評価基準および評価方法

- (1) 子会社株式および関連会社株式…移動平均法に基づく原価法
- (2) その他有価証券
 - ① 市場価格のない株式等以外のもの……時価法
(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)
 - ② 市場価格のない株式等……移動平均法に基づく原価法

2. 棚卸資産の評価基準および評価方法

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

- (1) 原材料および貯蔵品…移動平均法
- (2) 仕掛品……月次移動平均法
- (3) 商品……最終仕入原価法

3. 固定資産の減価償却の方法

- (1) 有形固定資産(リース資産を除く)
定率法

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は、以下のとおりであります。

建物および構築物 5～50年

機械装置および運搬具 2～8年

- (2) 無形固定資産(リース資産を除く)

ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

- (3) リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

4. 引当金の計上基準

- (1) 貸倒引当金……債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- (2) 賞与引当金……従業員に対する賞与の支給に充てるため、賞与支給見込額のうち当期負担額を計上しております。
- (3) 退職給付引当金……従業員の退職給付に備えるため、当期末における自己都合退職金要支給額から年金資産を控除した額を計上しております。
- (4) 役員退職慰労引当金…役員退職慰労金の支払に備えるため、役員退職慰労金に関する内規に基づく期末要支払額を計上しております。

5. 収益および費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容は、染色加工業務であり、履行義務を充足する通常の時点(収益を認識する通常の時点)として、主に染色加工した製品について、加工を完了した時点で収益を認識しております。

6. その他の計算書類作成のための基本となる重要な事項

(1) 繰延資産の処理方法

社債発行費

社債の償還までの期間にわたり定額法により償却しております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税および地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用しております。

会社の概況

(2026年3月31日現在)

1. 主要な工場・営業所および事業内容

事業所	主要な事業内容
本社・穂積工場 (岐阜県瑞穂市)	織物・編物・不織布の染色加工 木材関連事業および不動産賃貸業
大阪営業所 (大阪市中央区本町)	受注業務

2. 品目別・事業別売上高

(単位：百万円)

区分	前期		当期		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	差額	増減率
		%		%		%
染色加工事業	2,915	81.3	3,092	82.8	176	6.1
織物の加工	2,616	73.0	2,760	73.9	143	5.5
編物の加工	17	0.5	23	0.6	5	28.7
不織布の加工	212	5.9	225	6.0	13	6.2
その他	69	1.9	83	2.2	14	20.4
その他事業売上高	669	18.7	642	17.2	△27	△4.0
テキスタイル販売事業	439	12.3	457	12.3	18	4.1
木材染色事業	111	3.1	60	1.6	△51	△45.7
ステーブル加工事業	76	2.1	81	2.2	4	6.3
その他	41	1.2	42	1.1	1	2.6
合計	3,585	100.0	3,734	100.0	149	4.2

3. 重要な子会社等の状況

会社名	資本金	出資比率	主要な事業内容
株式会社ギフパッキング	40百万円	50.0%	包装・梱包・保管・運送業
株式会社 岐阜バイオマスパワー	45百万円	62.2%	発電事業

(注) 1. 株式会社ギフパッキングは当社の持分は100分の50であります
が実質的に支配しているため、子会社としております。なお、同
社は特定子会社であります。

2. 株式会社岐阜バイオマスパワーは、特定子会社であります。

4. 従業員の状況

従業員数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
144名	1名	40.8歳	17.2年

(注) 出向者、パート従業員は含んでおりません。

5. 主要な借入先

借入先	借入金残高
	百万円
株式会社三菱UFJ銀行	437
株式会社日本政策金融公庫	185
株式会社大垣共立銀行	173
株式会社十六銀行	159
岐阜県信用農業協同組合連合会	61

6. 会社の株式に関する事項

- | | |
|--------------|----------|
| (1) 発行可能株式総数 | 28,000千株 |
| (2) 発行済株式の総数 | 7,056千株 |
| (3) 株主数 | 517名 |
| (4) 大株主 | |

株主名	持株数	持株比率
	千株	%
東レ株式会社	1,408	20.42
岐セン従業員持株会	400	5.80
株式会社三菱UFJ銀行	318	4.61
スタイレム瀧定大阪株式会社	283	4.10
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	277	4.03
近藤祐司	225	3.26
株式会社日阪製作所	200	2.90
木村哲哉	139	2.01
オー・ジー長瀬カラーケミカル株式会社	135	1.96
山口晋平	119	1.73

- (注) 1. 当社は、自己株式156,377株を保有しておりますが、上記株主数および大株主からは除外しております。
2. 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

役員

(2026年6月22日現在)

代表取締役社長	後藤 勝則
常務取締役	後藤 康之 (業務全般統括)
取締役	栗山 幸治 (テキスタイル販売部長)
取締役(非常勤)	野村 建太 (東レ(株) テキスタイル事業部門長)
監査役	鈴木 康裕
監査役(非常勤)	堀江 正博 (東レ(株) 繊維事業管理室長)

.....
(注) 本営業報告書中の記載金額および株式数は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

また、割合は表示単位未満を四捨五入して表示しております。

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月下旬
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (同送付先)	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
単元株制度	1単元の株式の数は1,000株
公告掲載新聞	中部経済新聞

(お知らせ)

株式関係のお手続き用紙のご請求は、三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部テレホンセンターでも承っております。

(受付時間：土・日・祝祭日等を除く平日9：00～17：00)

電話 (通話料無料) 0120-232-711 (東京)
0120-094-777 (大阪)

上記電話番号がご利用できない場合

(通話料有料) 042-204-0303

インターネットホームページ <https://www.tr.mufg.jp/daikou/>

※表紙写真：いろはもみじ



岐セン株式会社

岐阜県瑞穂市牛牧758番地
TEL 058-326-8123